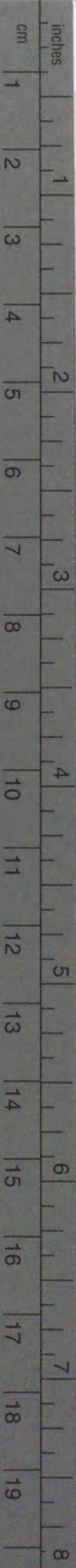


Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



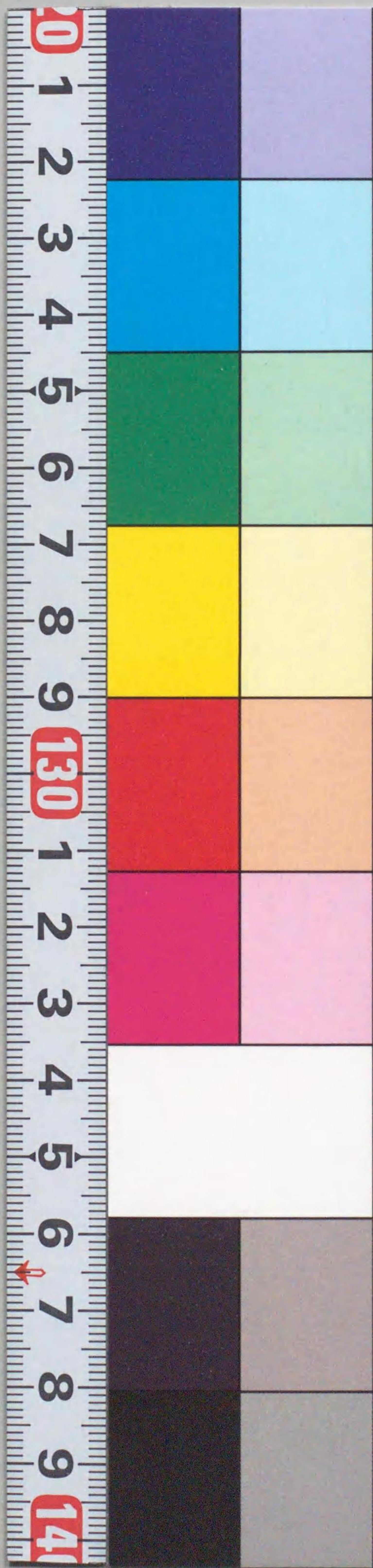
© Kodak, 2007 TM: Kodak



Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

© Kodak, 2007 TM: Kodak



Y994

J7862

每金曜日發兌

明治二十六年四月十四日

# 理財科講義

第十七

## 專修學校







I 種  
W



Y994  
J7862

録 目

經濟汎論(原論ノ部)	文學士	中隈敬藏
農業經濟	法學士	井上辰九郎
商法(第一編第三章商人)	法學士	鈴木宗言
民法財産編第一部(物權)	法學士	兩角彦六
私犯法	法學士	中川一介
社會問題	法學博士	金井延
二十年來經濟世界之景況	法學博士	田尻稻次郎

專修學校理財學會演說

經濟ノ點ヨリ死産ヲ論ス 獨乙國家學博士有 森 新 吉

リ尙ホ租稅アラハ租稅ヲモ引去リテ其跡ニ餘マル殘額ハ則チ生産從事者ノ所得ナリトス今此所得ヲ分析スルトキハ勞力者ノ資格ニ對スル報酬即チ勞銀及ヒ資本家ノ資格ニ對スル報酬即チ營業所得ノ二者ヲ含蓄ス故ニ該殘額ハ勞銀兼營業所得ナリ生産從事者ノ所得ナリ右ノ生産者ハ更ニ此所得ヲ以テ生産ニ從事セサルヘカラス言ヲ換ヘテ云ハ、勞銀兼營業所得ハ資本ト成リ變リテ更ニ生産ヲ生スルノ資金トナレリ即チ更ニ勞銀兼營業所得ヲ生スルノ原因トナレリ而シテ此ノ如ク更ニ生シタル勞銀兼營業所得ハ又資本ト成リ變リテ又勞銀兼營業所得ヲ生スヘシ故ニ勞銀兼營業所得ト資本トノ關係ノ密接ナルヤ或ハ原因トナリ或ハ結果トナリテ相互ニ進ミ行ク有様ヲ視ルトキハ孰レカ果シテ原因ナルヤ將タ結果ナルヤ得テ知ルヘカラサルカ如シ然リト雖モ資本ハ過去ノ勞力ノ結果ナリト云フコトハミルケヤンス、フォーセツト、ロスシエル等諸氏ハ勿論總テノ經濟學者カ是認スル所ナリ果シテ然ラハ資本ノ出處ハ勞力ヲ以テ既ニ生出シタル所ノ生産中ニアリ而シテ此生産ハ即チ所謂過去ノ勞力ノ結果ナリ今勞力ノ結果トハ取りモ直サス勞力ニ對スル報酬即チ勞銀ニアラス



シテ何ソヤ

(一)故ニ曰ク資本ノ生レ出タル發端ハ勞力ノ結果報酬勞銀(同一ノ意味)ニ在リ  
(二)又曰ク一旦勞力ノ結果ヨリシテ資本ノ端緒ヲ開キタル後ハ資本ト勞銀兼營  
業所得トハ原因トナリ結果トナリテ勞銀兼營業所得増加スルトキハ資本モ  
亦増加シ資本斯ク増加スルトキハ勞銀兼營業所得モ亦更ニ増加シツ、進ミ  
行クモノナリ

(三)又曰ク前項ノ現象ニ惑ハサレ事ノ本末ヲ誤解シテ勞銀ノ出處ハ資本ニ在リ  
ト信シ勞銀基金説ヲ唱フルハ識者ノ言ニアラサルヘシ如何トナレハ論者ノ  
所謂勞銀基金(資本ノ一部分)ナルモノハ業ニ既ニ生産者カ勞銀兼營業所得ト  
シテ得タル所ノ生産ナリ而シテ該生産者カ更ニ進ミテ得ント欲スル所ノモ  
ノハ右ノ勞銀基金ニアラスシテ此勞銀基金ヲ以テ更ニ生出スル所ノ生産即  
チ勞銀兼營業所得ナリ

(四)又曰ク一身ニテ資本家ト勞力者トノ資格ヲ兼テル場合ニ於テハ勞銀ト營業  
所得トヲ合併シテ受取ルカ故ニ勞銀兼營業所得ヲ分配スルノ必要ナシトス

二

三

然リト雖モ勞力者タルノ資格ヨリシテ受クル部分ト資本家タルノ資格ヨリ  
シテ受クル部分トハ自ラ區別アル道理ナリ果シテ然ラハ例ヘハ今日マテ一  
身ニテ資本家ト勞力者トノ資格ヲ兼テタル生産者カ明日ヨリハ勞力者タル  
ノ働キヲ止メテ他人ニ其働キヲ依頼シ自分ハ全ク資本家タルノ働キノミニ  
従事スル場合ニ於テモ亦右勞力者ノ勞銀ノ出處ハ資本家ノ營業所得ト同シ  
ク勞銀兼營業所得基本中ニ在ルハ論ヲ俟タサルナリ  
論者或ハ云ハン一身ニテ資本家ト勞力者トノ資格ヲ兼テル場合ニ於テハ敢  
テ間然スル所ナキカ如シト雖モ一身ニテ此兩資格ヲ兼テサル場合即チ資本  
家ハ勞力者ヲ備入レテ勞銀ヲ與フル場合ニ於テハ甚タ疑ハシキ事實アリ如  
何トナレハ論ヨリ證據ニハ資本家カ現ニ其資本中ヨリ勞銀ヲ支拂フニアラ  
スヤト是レ一チ知リテ二チ知ラサルノ論者ナリ請フ論者ノ疑惑ヲ解カン  
第一 資本家ハ必スシモ其資本中ヨリ勞銀ヲ支拂フニ及ハス  
第二 資本家カ其資本中ヨリ勞銀ヲ支拂フ場合ニ於テモ勞銀ノ眞ノ出處即  
チ分配ノ原理ハ毫モ異ナル所ナシ



第一ノ場合ヲ説明センニ勞力者ナレハトテ必スシモ資本ナシト云フヘカラ  
 ス彼ニ多少ノ貯蓄アリテ生産ニ著手スル日ヨリ生産ヲ仕遂クル日マテ自分  
 ノ貯蓄ニ依リテ衣食ヲ辨給スルコトヲ得レハ生産出來ノ後即チ所謂勞銀兼  
 營業所得基本ヲ生セシトキニ其内ヨリ分配勞銀ヲ受クルモ何ノ妨ケカ之ア  
 ラン或ハ又生産出來前ニハ勞銀ノ一部ヲ支拂ヒ出來後ニ至リ殘ル部分ヲ支  
 拂フモ妨ケナカルヘシ左スレバ論者ノ疑惑ノ一半ハ既ニ氷解セシコトナラ  
 シ

第二ノ場合ヲ説明センニ勞力者ニシテ資本ナシ第一ノ場合ニ於テ説明セ  
 シカ如ク生産出來マテ勞銀ヲ受ケスシテ衣食ヲ辨給シ得ル者ハ實際ハ決シ  
 テ多カラス然ルノミナラス今日ノ有様ハ貯蓄ナキ勞力者ハ勿論多少ノ貯蓄  
 アル勞力者ト雖モ概シテ勞銀ノ前拂ヲ受クテ常例トス故ニ論者ノ言ノ如ク  
 勞銀ハ現ニ資本中ヨリ支出セラレ居ルニ相違ナカルヘシ例ヘハ生産ノ出來  
 ノ有無ニ拘ハラズ每一日若クハ每一週若クハ每一箇月若クハ毎半年箇年ト云  
 フカ如クニシテ勞銀ヲ支拂フコトアルヘシ然リト雖モ勞銀ノ支拂期節ハ毫

四

五

モ生産ノ分配ニ關スル原理ニハ關係ナシ有セサルナリ勞力者カ資本家ヨリ勞  
 銀ノ前拂ヲ受クルハ其實生産出來後ニ受クヘキ勞銀ヲ抵當トシテ勞銀ノ前  
 借ヲ爲スニ外ナラス斯ク借用スル所ノ金員ハ必スシモ傭主ナル資本家ニ限  
 ラス他ノ資本家ヨリ借用スルモ可ナリ但シ元來無資力ノ勞力者ナレハ他ノ  
 資本家ニ向ヒテハ信用ナキヲ以テ傭主ナル資本家ヨリ借用スルノ外ナカル  
 ヘシ斯ク論シ來ラハ勞銀ノ眞ノ出處ハ資本家ト勞力者ト別人ナル場合ニ於  
 テモ別人ナラサル場合ト同シク資本ニアラスシテ生産高(租稅地代等ヲ引去  
 リタル高)即チマーシャル氏ノ所謂勞銀兼營業所得基本ニアルコト明瞭ナラ  
 シ

勞銀ノ出處ハ資本ニアラスシテ生産高尙ホ精密ニ云ハ、勞銀兼營業所得基本  
 ニアルコトハ諸君既ニ之ヲ了解セラレタルコトナラン是ヨリハ勞銀ノ多少ハ  
 資本ノ多少ニ制セラル、ヤ將タ生産ノ多少ニ制セラル、ヤノ問題ヲ決セント  
 欲ス前既ニ論究セシカ如ク一身ニテ資本家勞力者ノ兩資格ヲ兼テル場合ニ於  
 テハ其資本家タル資格ニ對スル報酬ハ勿論勞力者タル資格ニ對スル報酬モ亦



均シク生産高中ヨリ來ルモノナリ故ニ生産高ノ多少ハ勞銀ト營業所得トノ多  
少ヲ制スルコト論ヲ俟タサルナリ又資本ハ同額ナルモ勞力ノ成功力如何、勞力  
ノ分業協同如何、器具器械ノ便否如何、其他種々ノ原因(生産ノ多少ヲ生スル原因  
ノ詳細ヲ説クノ時間ナケレハ姑ク之ヲ略ス)ニ依リテ生産高ニ非常ノ差異ヲ生  
スヘシ

資本家ト勞力者ト別人ナル場合ニ於テモ前段ノ原則ヲ適用スルヲ得ヘキヤ曰  
ク然リ資本家ハ一旦勞力者ニ向ヒテ勞銀何程ト契約ヲ定メタル以上ハ何事カ  
豫期シ能ハサルコトアリテ損失ヲ蒙ル場合ニ於テモ契約ノ勞銀額ヲ減スルヲ  
得ス又之ト反對ニテ豫算外ニ多キ營業所得ヲ得ルコトアルモ契約ノ勞銀額ヲ  
増スニ及ハサルカ故ニ勞銀ノ歩合ハ生産ノ多少ニ毫モ關係ナキモノト信セラ  
ル、諸君或ハ多カラシ然レトモ是レ亦一ヲ知リテニチ知ラサルノ論ノミ若シ  
其損失ヲ來タシタル原因ハ其時限リノ原因ニアラスシテ多少永續スルノ原因  
ナランカ彼ノ資本家ハ他日同様ノ損失ヲ蒙ラサルノ策ヲ爲スヘシ例ヘハ生産  
ノ價格ノ下落ヨリ損失ヲ受ケシナラハ供給ヲ減少スルノ方針ヲ取ルヘシ左ス

レハ是迄ト同人数ノ勞力者ヲ要セス隨ヒテ勞力者ニ對スル需要減少シテ勞銀  
ニ多少ノ減少ヲ來タスヘシ之ニ反シテ彼ノ資本家ハ非常ニ多クノ營業所得ヲ  
得テ其原因ハ多少永續スルモノナランカ資本家ノ射利ニ敏捷ナル直ニ競争ヲ  
始ムヘシ既ニ該事業ニ從事シ居ルモノハ事業ヲ擴張スルコトヲ謀リ他ノ資本  
家ハ他ノ事業ヨリ該事業ニ轉セント欲シ該事業ニ關係アル勞力者ニ向ヒテ需  
要ヲ増加スヘシ隨ヒテ勞銀モ亦増加スヘシ尙ホ種々論スヘキモノアリト雖モ  
勞銀ハ資本ノ多少ニ制セラル、ヤ將タ生産ノ多少ニ制セラル、ヤノ問題ニ對  
シ事ノ要領ヲ掲ケテ勞銀ハ其大體ニ於テハ生産ノ多少精密ニ云ハ、勞銀兼營  
業所得基本ノ多少ニ制セラル、所以ヲ説明スルコト斯ノ如シ而シテ勞銀兼營  
業所得基本カ勞力者ト資本家トノ間ニ分配セラル、ニ就キテハ如何ナル原則  
アリヤ是レ即チ我輩カ是ヨリ研究セント欲スル所フモノナリ  
勞銀ノ多少ハ勞銀兼營業所得基本ノ大小ニ依リテ決セラル、コトハ既ニ知ル  
ヲ得タリ此事ハ勞銀ノ大體ヲ規定スルノ原則ニシテ舊說ノ所謂勞銀ハ流動資  
本ノ一部ナル勞銀基金額ト勞力者ノ員數トノ比例ニ依リテ決セラルヘシト云



フ原則ニ代ハルヘキモノトス(勞銀兼營業所得基本トハ資本ニアラスシテ生産中純収入ノ一部分タルヲ忘却スル勿レ)既ニ論定セルカ如ク勞銀ノ多少ハ資本ノ多少ニ關係ナキニアラスト雖モ其關係ハ只外面上ノ關係ニシテ眞實ノ關係ニアラス眞實ノ關係ハ勞銀兼營業所得基本ノ多少ニアリ是レ即チ米國ニ於ケル勞銀ノ歩合ハ英國ノ勞銀歩合ヨリモ大ナリ英國ニ於ケル勞銀ノ歩合ハ歐洲大陸ノ勞銀歩合ヨリモ大ナル所以ニシテアルノルド、トインビー氏及ヒ其他ノ經濟學者ノ所謂勞銀ハ生産ノ多少ニ關ストハ蓋シ此意ヲ表スルニ外ナラス勞銀兼營業所得基本ハ勞力者ト資本家トノ間ニ如何ニ配分セラル、ヤノ點ニ就キテハ我輩ハ成ルヘク之ヲ不問ニ措キ先ツ勞銀ノ大體ヲ規定スル原則ヲ論定セリ故ニ是ヨリハ勞銀兼營業所得基本ノ分配ヲ論セン此事ヲ論スルニハ先ツ營業所得ノ成分ヲ知ラサルヘカラス營業所得ハ第一資本ニ對スル利子第二事業經營ノ勞ニ報ユル勞銀第三生産上危險ノ賠償ヲ含蓄ス生産上危險ノ賠償ハ暫ク取除キテ他日ノ論ニ譲リ第一第二ノ二者ニ注意セン(第二事業經營ノ勞ニ報ユル勞銀ハ即チ勞銀ニシテ上等ノ勞力者精巧ナル勞力ニ對スル勞銀ト何

主多キ地方ニ行ハル、モノナリ又大貌顛國ニ於テモ英倫土ノ東南部及ヒ蘇格蘭ノ南部ニ行ハル、ナリ尙ホ歐洲以外ノ國ニシテ輪植農業ノ行ハル、所ハ亞羅比亞ノイエーメン州並ニ支那及ヒ日本ノ大部分是レナリ然レトモ是等ノ力諸國ニ在テハ農業上ノ資本特ニ家畜ノ數通常極メテ僅少ナルカ故ニ人間ノ勞ヲ以テ牛馬ノ勞働ヲ補充スルヲ常トスルモノナリ

### 第七節 園藝 (Gartenbau)

農業上ノ集約ノ最高度ニ達シタルモノハ園藝ナリ園藝ハ獨リ總テノ主要ナル首都ノ近傍ニ於テ行ハル、ノミナラス尙ホ又富裕ニシテ教育ノ進ミタル村落ニ於テモ通常行ハル、モノナリ園藝ニ於テハ通常巧ミニ肥料ヲ施スコト必要ニシテ且之ヲ多額ニ要スルモノナルヲ以テ園丁ハ可成的饒ニ之ヲ用井ンコトヲ欲シ又雇主ハ勉メテ之ヲ減少センコトヲ欲スルカ爲メ此二者ノ間ニ於テ肥料ニ關シ屢々爭ヲ生スルコトアリ而シテ園藝ニハ多量ノ肥料ヲ要スルハ勿論蔬菜ノ栽培菓實ノ保護等ニ付種々ノ注意ヲ要スルモノニシテ其集約ナルコト自



餘ノ農業組織ニ比スレハ遙ニ甚シキモノアリ此種粗製品生産ノ一科ハ諸國ノ主要ナル首都ノ近傍ニ在テハ其首都ノ工藝及ヒ奢侈物ノ商業ト相並ンテ進歩スルノミナラス又其美術ト共ニ發達スルモノナリ例ヘハ野菜ニ就テ之ヲ考フルモ漸々其風味ノ甘美ト共ニ色澤ノ美麗及ヒ香氣ノ多キコト必要ナルニ至ルカ如シ實ニ野菜ヲ栽培スルコトハ恰モ一種ノ工藝ニ類スルモノニシテ土質ノ如何ヲ論セス又時ノ如何ニ拘ハラス唯僅ニ冬季暫時ノ間斷アル外ハ常ニ之ヲ行フヲ得ヘク又假令穀物ノ耕作ニハ殆ント不適當ナル砂地ト雖モ猶能ク野菜ノ栽培ニ取テ高價ヲ有スルモノアリ又夫ノ分業法ノ如キモ園藝ニ付テハ盛ンニ行ハル、モノナリ而シテ園丁ノ栽培スヘキ植物ハ其種類極メテ多シト雖モ園丁ニ取テ最モ緊要ナル事項ハ新ニ有用ナル植物ノ產出ヲ講スルニ在リトス現ニ一箇ノ園丁ニシテ新規ナル一種ノ熱帶植物ヲシテ其土地ノ氣候ニ適合セシムルコトヲ發明シテ三萬フランク乃至十萬フランクノ利益ヲ得タルコト決シテ稀有ニ非サルナリ

### 第八節 集約農業ノ行ハルヘキ場合

以上農業組織ノ主要ナルモノヲ説明シタルヲ以テ今ヤ農業組織ノ論評ニ移リ此ニ集約農業ノ行ハルヘキ場合ヲ論究セン  
凡ソ集約農業ハ其收穫疎薄農業ニ比シテ饒多ナルハ事實上誣ユ可カラサルコトニシテ教育ニ富ミタル人々ハ疎薄農業ヲ目シテ拙劣ナル組織トナスハ決シテ怪シムニ足ラサルナリ然レトモ集約農業ハ必スシモ何レノ場合ニ於テモ利益アルモノト云フ可カラス古來移住民ノ歴史ニ徴スルニ開化ノ進ミタル地方ヨリシテ未開ノ土地ニ移住シ而シテ其地從來ノ農業ニ代フルニ更ニ高等ナル農業法ヲ以テセンコトヲ試ミシモ能ク其效ヲ收ムルコトナク却テ空シク衰頽ヲ招キタル例頗ル多シ是必竟移住民カ其地方ノ經濟上及ヒ物質上共ニ本國ト趣キナ異ニスルモノアルヲ考量セサルノ誤リニ座スルモノナリ  
集約農業ハ一ノ邦國ニ於テ大ナル利益アルモ他ノ國ニ於テ必スシモ然ル能ハサルコトヲ知ラサル可カラス是ヲ以テ方今北米合衆國ニ於ケル耕作ノ方法拙



劣ニシテ肥料ノ施用法不完全ナルモ敢テ深ク咎ムルニ足ラス又魯西亞ノ内地ニ於ケル地主ハ其資金ヲ以テ土地ヲ改良スルコトヲ勤メスシテ唯、新ニ土地ヲ買入ル、コトニ熱心ナルカ如キモ亦決シテ故ナキニ非サルナリ要スルニ此等ノ土地ニハ疎薄農業ノミ適シテ濫リニ集約農業ヲ試ムルカ如キハ決シテ得策ニ非ス却テ損失ヲ招クカ爲メナラン例ヘハ魯國ノ東海地方ニ知識ノ進歩セル獨逸ノ農民移住シテ稍、巧ミナル農業ヲ施行セント欲シ其カ爲メ遂ニ損失ヲ招キ乞巧トナリテ歸國スルニ至リタルモノ尠ナカラサルカ如キ又或ル富豪ノ民及ヒ資本會社等カカムビース地方ニ於テ其地慣行ノ燃燒農業ヲ廢シテ更ニ集約農業ヲ始メント企テ却テ大損失ヲ生シタルカ如キ亦以テ集約農業ノ一概ニ施行ス可カラサルモノタルヲ知ルヘキナリ然ラハ則チ集約農業ハ如何ナル場合ニ行ハルヘキヤト云フニ先ツ多額ノ生産費及ヒ勞力ヲ用ユルニ適當ナル場合ニ非スンハ不可ナリ語ヲ換ヘテ言ヘハ人口稠密ニシテ農産物ノ需要多キ開明國ニ非サレハ之ヲ行フ可カラサルナリ請フ是ヨリ稍、詳細ニ之ヲ説明セン凡ソ國民經濟ニ於テ生産費ト稱セラル、モノハ生産ノ爲メニ運用セラル、所

ノ犧牲即チ勞力及ヒ資本ニ外ナラサルナリ而シテ總テ農業上雜收入ヲ増加スル所ノ行爲ハ從テ亦生産費ヲ要スルコト大ナルハ爭フ可カラサルノ通則ナリ故ニ多額ノ收穫ヲ欲セハ亦多額ノ生産費ヲ用非サル可カラサルヤ明カナリ例ヘハ肥料、牛馬、器具、種子等ノ諸件ニ就テ農業上收穫ヲ増加スル效驗ノ著シキモノヲ使用スルトキハ其資本及勞力ヲ更ニ多ク費サ、ルヲ得サルカ如シ今先ツ肥料ニ付テ考フルニ肥糞ノ善惡ハ主トシテ人畜ノ食料ノ良否ニ關スルモノニシテ例ヘハ割烹店ノ糞尿ハ兵營及ヒ監獄ノモノヨリ其效驗著シク又支那ノ廣東ニ於ケル歐洲人ノ排泄物ハ亞細亞人ノモノヨリ高價ヲ以テ賣買セラレ又佛國ノニース州ニ於テ往時「プロスタント」宗徒ノ排泄物ハ「カソリック」宗徒ノモノヨリ高價ナリシト云フカ如キ事實アリ以テ肥料ノ善惡ハ食料ノ良否如何ニ關係スルコト大ナルヲ知ルヘキナリ次ニ牛馬ニ付テ考フルニ牡牛若クハ牝牛ヲ使役スルハ馬ヲ使役スルヨリ其費用少ナキモノナレトモ牛ハ獨リ其購買代價及ヒ之ヲ使用スル經費ノ低廉ナルノミニ限ラス又之ヲシテ勞働ニ服セシムルノ外尙ホ乳牛若クハ食牛トシテ更ニ利益ヲ得ルノ途アルニ因ルナリ然レトモ



亦馬ハ牛ニ比スレハ一層柔順ニシテ且勇壯ニ勞働スルモノナルヲ以テ大耕地若クハ多ク器械ヲ用非テ集約的耕作ヲナス土地特ニ道路ノ平坦ナル場所ニ在テハ其健歩ナルノ性質アルヨリシテ之ヲ使用スルノ利益大ナルコト明カナリ又賃銀ノ不廉ナル土地ニ在テハ馬ノ勞力ヲ以テ人間ノ勞力ニ代用スルノ宜シキニ如カサルナリ而シテ農業上ノ機械ニ付テハ又大ニ之ト趣キヲ同フスルモノアリ即チ其機械ノ良否ニ因リ價格ニ大小アルコト是レナリ而シテ良巧ナル器械ヲ使用スレハ其收益必ス多カルヘシト雖モ斯ノ如キ高價ノ器械ヲ使用シテ實際純收益ヲ得ヘキ場合ハ獨リ資本裕ニシテ勞力者能ク熟練シ且原料品多ク又時間敬重セラレテ物品ノ需要夥シキ場合ニ限ルモノトス然リ而シテ播種ノコトニ付テモ先ツ其種子ノ善良ナルモノヲ撰ヒ且器械及ヒ之ヲ運轉スル牛馬ノ良質ナルモノヲ使用スルトキハ收穫ヲ増加シ得ヘシト雖モ亦從テ更ニ新ナル煩勞ヲ生スルヲ免レス又芴入レニ際シテ小鎌ヲ以テスルトキハ大鎌ヲ以テスルヨリハ子實ノ散落スルコト少ナキ利益アリト云フ而シテ其勞苦ニ至テハ小鎌ヲ用ユルハ大鎌ヲ用ユルニ比シテ三倍ノ勞ヲ要スルモノナリ又脱穀ノ

コトニ付テモ家畜ヲシテ之ヲ踏マシムルコト最モ便利ナリト雖モ爲メニ糞穢ハ蹂躪セラレ其過半ハ用ヲナサ、ルニ至ルノミナラス又子實ノ一部分ハ(二割五分)尙ホ穗先ニ殘存スルノ損失アリ又家畜ヲ賣却スルコトニ付テモ充分ニ之ヲ成長セシメハ收益ヲ得ルコト多シト雖モ之カ爲メ久シキ時間飼養ニ關スル費用ヲ要スルヲ以テ貧困ナル人民ハ之ニ堪ユル能ハサルナリ又牧畜ニ關シテモ犢牛ヲシテ早ク母牛ノ哺乳ヲ離レシムルトキハ其乳汁ヲ搾取シテ販賣スルノ便利アリト雖モ若シ斯クスルトキハ其犢牛ニ善良ナル飼料ヲ與ヘテ相當ノ舍内ニ之ヲ飼養シ且通常清潔ノ掃除ヲ施サ、ル可カサルナリ以上述ヘタルカ如ク多額ノ資本及ヒ勞力ヲ用非而シテ良巧ナル耕作ヲ行フトキハ多額ノ收穫ヲ來タスヤ疑ナシト雖モ若シ其場合ノ如何ヲ顧ミス濫リニ生産費ノミヲ消用スルモ其生産物ニシテ需要多カラサルトキハ却テ損失ヲ招クヲ免レサルナリ此故ニ多額ノ生産費ヲ投シ集約ナル農業ヲ行ハシニハ必スヤ其人口稠密ニシテ各人ハ開明及ヒ富裕ヲ極メ奢侈物ヲ以テ其欲望ヲ濟充セント欲スル場合ナラサル可カラサルナリ



農業ハ實ニ世ノ開明進歩スルニ從ヒ益集約ニ赴クモノニシテ即チ一國經濟上  
 ノ知識益發達スルニ從ヒ地價愈騰貴シ資本及ヒ勞力ハ愈低落スルモノナリ故  
 ニ斯ル場合ニハ努メテ土地ヲ節約シ而シテ資本及ヒ勞力ヲ多量ニ用ユレハ從  
 テ其利益増加スルモノナルヲ以テ勢ヒ農業ハ集約トナルコト之ヲ經濟ノ學理  
 上並ニ其實際上ニ徴シテ疑ナキ所ナリ人口日ニ増殖シ農業物ノ需要モ亦漸次  
 其度ヲ加ヘ而シテ獨リ土地ノ供給ハ際限アリテ増加スルヲ得ス是ヲ以テ勞力  
 ハ益饒多トナリ資本モ亦世ノ進歩ト與ニ増加シ加之ナラス工業ノ進歩ニ因テ  
 農業器械ノ價格益低落スルカ故ニ集約ナル農業ハ自然此ニ行ハレサルヲ得サ  
 ルナリ

農業ハ實ニ勞力及ヒ資本ノ低廉ナル場合ニ於テ初メテ集約ノ組織トナスニ適  
 スルモノナリ而シテ勞力及ヒ資本ノ二者ニ付テモ亦其相互比較上ノ價值低廉  
 ナルモノニ對シテ農業ハ一層集約トナルコト通常ナリ例ヘハ英國ニ於ケル農  
 業ハ勞力ヨリハ遙ニ資本ニ集約ナルカ如キハ是レ畢竟英國ニ於テハ賃銀高貴  
 ニシテ利子低廉ナルヲ以テ容易ニ善良ナル器械ヲ得ヘク從テ人間ノ手足ノ代

利益ヲ得ントスルニアルモ商取引トナサザルコト是レナリ然レトモ予ハ地價  
 ノ騰貴セル土地ヲ賣却シテ其低落シタルトキ之ヲ買收スルモノト其騰貴セル  
 時ヲ俟テ之ヲ轉賣セントノ目的ヲ以テ低落ノ時之ヲ買入ルモノノ間ニ於テ  
 如何ナル差異アルヤヲ發見スル能ハス是レ予ノ解ス可カラサル第一點ナリ又  
 但書ニ射利ヲ趣旨トスル土地ノ買得及ヒ轉賣ノミヲ商取引トナストアルカ故  
 ニ不動産ニ關スル商取引ハ獨リ其賣買ニ限リタルカ如シト雖モ決シテ然ラス  
 シテ其他尙ホ射利ヲ目的トスルモノ種々アリ然ルニ其賣買ノミヲ以テ商取引  
 トナシ自餘ノ契約ヲ商取引トナサハ是レ亦予ノ解スル能ハサル第二點ナ  
 リ例ヘハ夫ノ貸家營業ヲ以テ利益ヲ得ント企ツルモノ、如キハ何故ニ商取引  
 ナナスト云フ能ハサルノ類是レナリ又既ニ說述シタルカ如ク我商法ハ商法ヲ  
 以テ商人ノ身分法ナリトスルノ不可ナルヲ認識シナカラ又其農業上ノ所有權  
 ト商業上ノ所有權トヲ區別スルノ誤謬ナルコトヲ認識シナカラ尙ホ且不動産  
 ナリテ商業上ノ目的ニ適セサルモノトナスカ如キハ是レ亦予ノ解スル能ハサ  
 ル第三點ナリ願フニ我民法商法ハ素ト外國人之カ草案ヲ起シ而シテ本邦人之



ナ討議修正シタルヲ以テ其前後相聯絡セル法條ニ向ヒテ或ハ修正損益シ或ハ原案ニ因リ漫然經過シタル結果トシテ往々斯ノ如キ時ニ前後ノ權衡ヲ失フ時ニ相撞著スルノ不備ヲ現ハス所以ナランカ實ニ遺憾ノ至リト云ハサル可カラサルナリ

### 第三章 商人

#### 第一節 商人ノ性質

商人ナル思想ニ關シテハ歐洲大陸ノ法律ト英國ノ法律ト大ニ其趣キヲ異ニセリ即チ英國ニ於テハ特ニ商人ト非商人トノ區別ヲ設ケスシテ苟モ商事ヲ行フモノハ何人ニ論ナク其事柄ニ付テ商人ナリトセリ例ハ農夫カ爲替手形ヲ振出ストキハ其之ヲ振出ス點ニ於テノミ商人トシテ商法ノ規定ニ從ハサル可カラストスルカ如シ之ニ反シテ大陸諸國ニ於テハ商人ト非商人トノ區別ヲ設ケ單ニ商業ヲ以テ職トナスモノニ非サレハ商人ト稱スルヲ得サルコトハセリ即

チ獨逸商法第四條ニハ商人トハ常職トシテ商業ヲ營ムモノヲ云フト又佛國商法第一條ニハ商人トハ商業ヲナシ平常之ヲ以テ自己ノ職業トスルモノナリトアリ其他ノ大陸諸國ハ皆佛國商法ニ模倣シテ制定シタルヲ以テ殆ント前記ノ佛國商法ト異ナル所ナシ要スルニ歐洲諸國ニ於テハ概テ商人ヲ以テ一箇ノ身分トナセリト雖モ獨リ英國ハ然ラスシテ何人ト雖モ商事ヲ行フモノハ其點ニ付テノミ之ヲ商人ト見做セリ又歐洲諸國ニ於テハ商人タルモノハ商業帳簿ヲ備ヘ或ハ商業記登簿ニ登記スル等種々煩ハシキ手續ヲ履マサル可カラサルモ英國ニ於テハ毫モ此等ノ手續ヲ履ム煩累ナシ故ニ英國法ハ商人タルモノヲシテ困難ヲ感セシメス却テ商業ヲ獎勵スル精神ニ適合スルモノト云フヘシ我商法ハ歐洲諸國ノ法律ト同シク商人ヲ以テ一箇ノ身分トナセリ即チ商法第九條第一項ニ商人トハ如何ナル人ヲ指稱スルヤヲ示シテ云ク商人トハ總テ商業ヲ營ムモノヲ云フト又更ニ之ヲ説明シテ商業ヲ營ムトハ常業トシテ商取引ヲナスコトヲ云フト規定セリ然レトモ此規定ハ單ニ商人トハ總テ常業トシテ商取引ヲナスモノヲ云フトセハ却テ簡明ニシテ穩當ナラン而シテ今此定義ヲ



分析スレハ商人ト稱スルニハ必ス左ノ二條件ヲ具備セサル可カラス即チ第一  
商取引ヲナスコト第二常業トナスコト是レナリ

第一 商取引ヲナスコト

商取引ニハ性質上ノ商取引法定ノ商取引及附從ノ商取引ノ三種アルコトハ已  
ニ述ヘタルカ如シ然レトモ此ニ所謂商取引ノ中ニハ附從ノ商取引ヲ包含セス  
其故ハ元來附從ニ因レル商取引ハ其之ヲナスモノ商人タルトキ此ニ始メテ生  
スルモノナレハ若シ之ヲ以テ直ニ商人タルニ必要ナル條件即チ商取引トナサ  
ハ本末ヲ紊リ所謂順環推理ノ誤リヲ惹起ス可ケレハナリ

第二 常業トナスコト

商人トナルニハ管ニ商取引ヲナスノミヲ以テ足レリトセス兼テ亦常業トスル  
コト必要ナリ例ヘハ吾人カ奇利ヲ博セント欲シテ一回或ハ二三回ノ相場ヲナ  
シ又ハ賣買ヲナスカ如キコトアルモ以テ吾人ヲ商人ト稱スル能ハサルナリ又  
商取引ヲナスコト兩三回ニ限ラスト雖モ之ヲ以テ職業トナサ、ルモノハ均シ  
ク商人トナスヲ得ス例ヘハ日々手形ヲ發行シテ之ニ署名シ或ハ之カ支拂ヲナ

スモ苟モ之ヲ以テ職業トナサ、ルモノハ商人ト稱スルヲ得サルカ如シ又小切  
手ヲ振出スコトハ商取引ナリト雖モ貯金預ケ人カ其預ケ金引出シノ爲メナル  
トキハ何程屢、小切手ヲ發行スルモ以テ商人ト云フヲ得サルナリ果シテ然ラハ  
職業トハ如何ト云フニ是レ英語並ニ佛語ノ(Profession)ニ該當スルモノニシテ生  
計ノ爲メニ取ル所ノ事業ノ謂ナリ故ニ商人トハ商取引ヲ以テ糊口ノ資トナシ  
且之ヲ常業トスルモノニ限レリ而シテ其常業ニハ如何語ヲ換ヘテ云ヘハ商取  
引ヲ實行スルコトヲ必要トスルヤ否ヤ例ヘハ店舗ヲ開キ商品ヲ陳列シ數箇月  
ノ久シキニ亘ルモ未タ一品ヲ賣却セサルトキハ之ヲ常業トナス能ハサルカ  
或ハ物品ヲ賣却シタルコトナキモ苟モ店舗ヲ開キ商品ヲ陳列シタル以上ハ之  
ヲ以テ常業ト稱シ得ルヤノ問題はレナリ今第九條ノ規定ニ依レハ常業トシテ  
商取引ヲナス云々トアルヲ以テ輕々ニ法文上ヨリ論斷スルトキハ未タ一回ノ  
商取引ヲナサ、ルモノハ常業ハ勿論會テ一回タモ取引ナキヲ以テ商人ト呼フ  
能ハサルモノ、如シ然レトモ第九條ニ向テ此ノ如キ解釋ヲ下スハ大ナル誤ナ  
リ必竟斯ル疑問ノ生スル所以ハ全ク法文ノ不完全ナルカ爲メナリ而シテ立法



者ノ精神ハ已ニ店舗ヲ開キ商品ヲ陳列シ商取引ヲナスヘキコトヲ世ニ公ニシタル以上ハ假令一物ヲモ賣却セスト雖モ猶之ヲ商人ト稱スルニ在ルヤ疑ナシ更ニ之ヲ換言スレハ此ニ所謂常業トハ實際慣行セサルモ常業トスルノ意思アレハ可ナリ如何トナレハ已ニ店舗ヲ公開シ商品ヲ陳列シタル以上ハ其之ヲナス人ニ於テ常業トスルノ意思ナルヤ判然ニシテ何人モ其然ラサルヲ疑フ所ナケレハナリ此故ニ常業トハ猶ホ營業ト云フカ如ク其人ニ於テ之ヲ營業トスルノ意思アルコト明瞭ナレハ以テ商人ト稱スヘキナリ尙ホ商法草案ニ於テ此商法ニ商人ト記載シタルモノハ總テ商業ヲ營ムモノヲ指スコト、了解スヘシト在ルヲ見テモ立法者ノ精神ヲ明知スヘキナリ而シテ其營業ヲナスノ意思明白ナルトキハ其專業タルト兼業タルトニ論ナク又主トシテ其事ニ從フト從トシテ其事ヲナストナ問ハス總テ之ヲ商人ト云ハサル可カラズ例ヘハ農夫ニシテ商業ヲ營ムモノアランカ是レ正ニ兼業タリト雖モ其農夫ハ猶ホ商人タリ又醫師ニシテ藥舖ヲ兼ヌル者アランカ是レ亦其藥舖營業ニ就テハ商人タルカ如シ或ル學者ハ營業稅ヲ納ムルコトヲ以テ商人タル資格ヲ顯表スヘキ標準ナリト

論スレトモ單ニ營業稅ヲ納ムル一事ヲ以テ商人ト非商人トノ區別ヲナス能ハサルナリ如何トナレハ營業稅ヲ納ムルモノハ獨リ商業ヲ營ムモノ、ミニ止マラスシテ總テ一箇ノ工藝又ハ職業ニ從事スルモノハ特別免稅セラレ、モノ、外皆之ヲ納メサル可カラズ例ヘハ商業ヲ營ムモノニ非サル代言人公證人等ニシテ猶ホ營業稅ヲ納メサル可カラサルカ如キコトアレハナリ故ニ到底營業稅ノ納否ヲ以テ商人ト非商人トヲ區別スル能ハサルナリ夫レ此ノ如ク常業ノ如何ナルモノナルヤハ之ヲ明定スルコト甚タ困難ナリト雖モ要スルニ是一ノ事實論ニシテ之ヲ決定スルハ專ラ事實裁判官ノ職權ニ屬スルモノトス商人ト稱スヘキモノハ獨リ有形人ノミニ限ラスシテ會社其他ノ無形人ノ如キモ苟モ前述ノ條件ヲ具有スルモノハ悉ク之ヲ商人ト稱スルヲ得ヘク從テ商人ニ關スル一切ノ規則ヲ適用シ得ヘキモノナリ(商法第十七條)故ニ假令一國ノ政府ニ於テ亦一箇ノ無形人ナルヲ以テ若シ商業ヲ營ムトキハ一箇人ト均シク帳簿ヲ備ヘ商號ヲ撰定シテ之ヲ登記シ經サル可カラサルナリ、以上述べタル三箇ノ條件ヲ外尙ホ第三ノ條件トシテ必要ナルハ商人トナル



キ能力ナリ而シテ此能力タル素ト何等ノ契約ニモ必要ナルモノナルヲ以テ特  
ニ商人トナル必要條件トシテ之ヲ掲クルノ要ナシ尙ホ此事ニ付テハ後章ニ至  
リ詳論スルノ機會アルヘシ此ニハ唯無能力者ニテモ商人トナリ得ヘキモノナ  
リト思考スルカ如キ誤謬ニ陥ル勿ランコトヲ注意ノ爲メ一言シ置クノミ  
第九條ノ末項ハ第一項ニ規定セル商人タルヘキモノ、例外ヲ示シ農作牧畜養  
蠶狩獵捕漁採藻ノ業ヲ營ムモノハ之ヲ商人ト看做サスト明言セリ然レトモ第  
七條第一號ノ明文ニ依レハ營業ノ目的ヲ以テ自ラ耕作シタル農產物ヲ賣却ス  
ルコトノ商取引タルヤ更ニ一點ノ疑ヲ容ルヘキ所ナシ故ニ第九條末項ノ意義  
ハ唯耕作或ハ養蠶等ノ所爲其モノヲ指シ而シテ此等ノ所爲ヲ常業トスルモ以  
テ商人ト看做サ、ルニ在リ此ノ如ク此等ノ所爲ヲナスモノハ之ヲ商人ト看做  
サスト雖モ若シ其產物ヲ天然ノ儘又ハ人工ヲ加ヘテ販賣スルヲ常業トスルモ  
ノハ之ヲ商人ト看做スコト固ヨリ論ナキナリ例ヘハ穀物問屋、屠牛所、魚鳥問屋  
ノ如キ皆是レナリ又既ニ述ヘタルカ如ク商取引ハ必スシモ主タル職業ノミニ  
限ラス從タル事業ニテモ敢テ妨ケナキヲ以テ若シ農夫ニシテ店舖ヲ常設シ或

動產トハ一ノ場所ヨリ他ノ場所ニ移轉セシムルコトヲ得ルモノニシテ不動產  
トハ一所ヨリ他所ニ其所在ヲ轉スルコト能ハサルモノヲ云フ故ニ此兩者ノ區  
別ハ其性質上素ヨリ有體物上ニノミ存スルモノナルコト明瞭ナリ何トナレハ  
一所ヨリ他所ニ移轉スルコトヲ得ルトカ得サルトカ云フコトハ形ナキ物ニ付  
テ有リ得ヘキコトニアラサレハナリ然レトモ法律ノ規定ニ於テハ猶ホ之カ區  
別ヲナスコトヲ得又加之ナラス其物ヲ所有スル者ノ意思如何ニヨリテ性質上  
動產ナルモノ之ヲ不動產トナスコトヲ得可シ故ニ動產、不動產ノ區別ニハ其原  
因三ツアリ

第一 物ノ性質

第二 物ノ用法即チ所有者ノ意思

第三 法律ノ規定

動產、不動產ノ區別ハ各種ノ分類中ニ於テ法律ノ規定上其實用ノ最モ大ナルモ  
ノナリ一步ヲ進メ一條ヲ讀下スル毎ニ其區別ノ實用ヲ感スト云フモ敢テ過言  
ニアラス而シテ其詳細ニ至リテハ諸君カ各科專任ノ講師ニ付キ研究スルコト



、ナシ茲ニハ其最モ重要ナル二三點ヲ示サントス

第一 不動産ハ抵當トナスヲ得ルモ動産ハ抵當トナスコト能ハス只質權ヲ設立スルコトヲ得ルノミ(債權擔保編第九十五條)

第二 不動産ハ法律ニ規定スル期限ヲ經過スルニアラサレハ時効ノ効果ヲ生スルコト能ハサルモ動産ニアリテハ只之ヲ占有スルノミニテ速時ニ時効ノ效果ヲ生スルコトヲ得(不動産ニ付テハ證據編第三百三十八條以下動産ニ付テハ證據編第四百十四條以下)

第三 財産差押及ヒ公賣ニ關スル法式ハ民事訴訟法ニ規定スルモノナルモ動産不動産ニ依リテ異ナレリ(同法第六編第二章第一節及ヒ第二節)要スルニ不動産ニ關シテハ繁雜ナル手續ヲ用ユルモ動産ニ關シテハ簡便ナル方式ニ依レリ  
第四 不動産ニ關スル訴訟事件ニ付テハ其不動産所在地ノ裁判所ヲ以テ其管轄トナス動産ニ付テハ被告人住所地ノ裁判所ノ管轄ニ屬ス(民事訴訟法第十條以下及ヒ第二十二條以下)

第五 不動産ヲ賣買讓與シ又ハ之ヲ抵當質入スルニ當リテハ登記ノ方法ヲ經

由セサル可カラス然ラサレハ第三者ニ對シテ其效力ヲ及ホスコト能ハス動産ニ就テハ之ヲ占有スレハ足ル(財産編第三百四十五條乃至第三百五十五條)

其他後見人カ幼者ノ財産ヲ管理スル點ニ付テモ動産、不動産ニ依リテ區別アリ要スルニ以上講述セシ如ク各種ノ區別中最モ實用ノ大ナルモノナレハ從テ多少其區別ヲ詳説スルノ必要アリ

第一 不動産

佛蘭西民法ニ據レハ不動産ヲ細別シテ一、性質ニヨル不動産二、用法ニヨル不動産三、物ノ附從スル目的ニヨル不動産ノ三種トセリ而シテ一般ノ學說ニ依レハ右三種ノ外ニ猶ホ法律ノ規定ニヨル不動産ナルモノアリ然レトモ此ノ區別タル決シテ穩當ト云フヲ得ス物ノ附從スル目的ニ依リテ其物ヲ不動産トスルハ即チ法律ノ擬制ニ依リテ本來無體物タル各種ノ權利ヲ不動産トナシタルニ外ナラスシテ佛蘭西學者輩カ第四トスル法定ノ不動産ト少シモ區別スルノ點ナシ故ニ我民法ハ佛蘭西民法ニ模倣シタルニモ拘ハラヌ此ノ規定ヲ採ラスシテ下ノ三種ニ區別シタルハ至當ナリトス



甲 性質ニヨル不動産  
 性質ニヨル不動産ハ第八條之ヲ列記セリ同條ニ掲クル所ハ制限的ナルカ將又例示的ニ外ナラサルカ即チ性質上ノ不動産ト同條ニ掲クル所ノミナルヤ否ヤト云フニアリ同條ノ末項ヲ見ルニ此他總テ性質ニ因リテ移動スヘキモノト雖モ建物ニ必要ナル附属物トアリ則チ本條ニ規定スル所ノモノハ決シテ制限的ノモノニアラスシテ立法者ハ例示的ニ性質上ノ不動産ノ何モノタルヲ示シタルニ外ナラサルヲ知ル可シ

第一 耕地、宅地、其他土地ノ部分

性質上嚴正ニ論スルトキハ土地ノ外ニハ性質上不動産タルヘキモノナシト云フコトヲ得何トナレハ不動産ハ一所ヨリ他所ニ移轉スルコトヲ得サルモノナリト云フモ必竟土地ヨリ之ヲ分離シ其本體ヲ存セスシテ他所ニ移スコト能ハサルコトヲ示シタルモノニシテ孰レモ土地アリテ初メテ不動産タル性質ヲ有スルモノナルヲ以テナリ故ニ本來不動産ハ土地ノミト云フコトヲ得ヘシ土地トハ其上部即チ表面ノミヲ示シタルノミニアラスシテ其地下チモ總括シタル

モノナリ故ニ土地中ニ含有スル砂石泥炭若クハ鑛物類ノ如キモ地中ニ包藏セラル、以上ハ土地ト共ニ性質上ノ不動産ナリトス(第七項)  
 玆ニ一ノ疑問ノ存スル點ハ右金銀又ハ寶玉等ノ地中ニ包藏セラル、モノ即チ埋藏物ハ性質上ノ不動産ナリヤ否ヤ余ノ考フ所ニ依レハ是等ハ決シテ不動産ト云フコト能ハス何トナレハ元來埋藏物ナルモノハ單ニ地中ニ埋没セラル、ト云フニ過キサルモノニシテ敢テ土地ノ一部分ヲナスモノニアラス土地トハ自ラ異ナリタル固有ノ性質ヲ具フルヲ以テナリ

第二 池沼、溜井、溝渠、堀割、泉源

是等ノモノハ何レモ悉ク水流ヲ包容スルモノニシテ水ハ混々トシテ流レテ盡キス一所ニ止マルモノニアラサルヲ以テ是等ノ不動産ト稱フルハ皮相上ヨリ見ルトキハ其性質ニ反スルカ如キ觀ナキニシモアラサルモ決シテ然ラス蓋シ池沼其他斯種ノモノハ土地ノ凹所ニ水ヲ含ムモノニ外ナラスシテ土地ヲ離レテ存在スルモノニアラス故ニ是等ノモノチ不動産トナスハ即チ土地チ不動産トナシタルト同シク其本來ノ性質ニ基クモノナリ要スルニ第二項ハ之ヲ法文



中ニ掲載セサルモ第一項ノミニ依リテ容易ニ判断スルコトヲ得ルナリ

第三 土手棧橋其他此類ノ工作物

第四 土地ニ定著シル浴場、水車、風車又ハ水力蒸氣ノ機械

土手棧橋其他水ヲ支ヘ又ハ水勢ヲ殺ク爲メ若クハ土砂ノ崩壞ヲ防ク爲メニ設置シタル工作物ハ動産ナリテ人工ニヨリ構造シタルモノナレトモ一タヒ土地ニ定著シタル時ハ之ヲ移動スヘキモノニアラス且浴場、水車、風車又ハ水力蒸氣ノ機械等モ亦同シク土地ニ構造シ附著スル以上ハ不動産ノ性質ヲ享受スルモノナリ

第五 樹木、竹木其他ノ植物

第六 果實及ヒ收穫物ノ未タ土地ヨリ離レサルモノ

凡ソ生ナ土地ノ力ニ假ルモノハ土地ニ於テ之ヲ不動産トナストハ佛蘭西ノ學者ノ唱ヘシ所ナリ樹木、竹木其他ノ植物カ不動産ニシテ且又其果實及ヒ收穫物カ不動産タルモ即チ此理ニ外ナラス此等ハ土地ニ附著シテ發生シ生育スルモノニシテ植物ノ性質上ヨリ不動産ト云フヨリ寧ロ土地ト合體シテ茲ニ不動産

ト稱スルト云フモ敢テ不可ナシ故ニ他ニ移植シ又ハ賣却スルノ時機ヲ待ツカ爲メニ一時假リニ地上ニ置キタル植物ノ如キハ之ヲ性質上不動産ト云フコト能ハス何トナレハ斯ハ土地ニ附著シ合體シテ其一部ヲナスモノニアラス即チ永ク生ナ土地ニ假ルモノニアラスシテ一時其枯槁スルヲ防クカ爲メナレハナリ果實及ヒ收穫物ト雖モ之ト同一ニシテ之ヲ収採シテ其土地分離スルヤ直ニ不動産タルノ性質ヲ失フモノナリ加之ナラス未タ土地ト分離セスト雖モ其樹木若クハ果實ノミナ他ニ讓渡シタル場合ニ於テハ當事者ノ意思ニ依リテ動産トナルナリ何トナレハ此場合ニ於テ買主ノ權利ハ毫モ不動産ト關係ナ有セスシテ只其收穫シ伐採スヘキ樹木又ハ果實ノミニ關スルニ過キス而シテ其樹木及ヒ果實ハ恰モ已ニ業ニ收穫シ伐採セラレタルモノト同様ニ看做サル、モノナレハナリ是レ第五項及ヒ第六項ノ但書ニ云フ所ニシテ即チ後ノ第十二條ノ規定ニ依リ用方ニヨル動産ノ一種トナルモノナリ

第七 鑛物、坑石、泥炭及ヒ肥料等ノ未タ土地ヨリ離レサルモノ

是レ亦前項ト同シク土地ヨリ分離セサル場合ニ於テ不動産タルノ性質ヲ有ス



ルモノナリ否寧ロ鑛物、坑石、泥炭等ノ如キハ土地其モノト稱スルモ決シテ不可ナシ何トナレハ土地ナルモノハ實ニ金石土砂ヨリ組成スルモノナレハナリ然レトモ鑛坑ハ之ヲ土地ト別箇ニ賣却シ又質入スルコトヲ得又政府ハ其開鑛ヲ土地所有者外ノモノニ許可スルコトヲ得ルナリ故ニ鑛坑ト地表トニ其所有權ヲ分離スルコトヲ得テ從テ其之ヲ包含スル土地ノ外ニ立ツテ一箇ノ不動產ヲ組成スルコトヲ知ルヘシ

第八 物及ヒ其外部ノ戸扉

建物ハ人爲ニ依リテ本來動產ナル物件ヲ收集シテ構成シタルモノナリ其一タヒ構成セラレテ一箇ノ建物トナルヤ之ヲ破毀シテ土地ヨリ分離スルニアラサレハ他所ニ移轉スルコト能ハス故ニ法律ハ之ヲ土地ト同視シテ性質ニヨル不動產ノ一種トセリ然レトモ建物ヲ以テ不動產ナリトスルハ如何ナル條件ヲ要スルヤニ付テハ佛蘭西學者間ニ於テモ多少ノ議論アリ然レトモ余輩ノ考フル所ニ依レハ別ニ議論アル可キモノニアラスシテ只土地ニ附著スト云フ一事ヲ以テ定マレリト考フ何トナレハ土地ヲ離レテ不動產ナリ土地ニ附著シテ初メ

知リナカラ其事ヲ告ケスシテ代理人ヲシテ或ル事ヲ行ハシメ爲メニ代理人第三者ニ償金ヲ支拂ハサルヲ得サルニ至リタル場合ニ於テハ代理人ハ更ニ本人ニ對シテ自己ノ賠償シタル償金額ヲ請求スルコトヲ得ルナリ斯ハ必竟本人代理人ニ對シテ或ル特別ノ過失アルカ若クハ權限ノ有無ヲ隱蔽シタル特別欺詐アルカ故ニシテ之ヲ以テ共同加害者間ニ損害ノ分擔ヲ許サ、ル原則ノ例外ト看做スコト能ハス  
共同加害者ノ場合ニ於ケル責任ニ付テハ我新民法ハ財産編第三百七十八條ニ於テ左ノ如ク規定セリ  
本節ニ定メタル總テノ場合ニ於テ數人カ同一ノ所爲ニ付責ニ任シ各自ノ過失又ハ懈怠ノ部分ヲ知ル能ハサルトキハ各自全部ニ付義務ヲ負擔ス但シ共謀ノ場合ニ於テハ其義務ハ連帶ナリ  
此規定タルヤ大體上英吉利法律ノ規定スル所ト異ナル所ナシ

第三節 外國ニ於テセル私犯



外國ニ於テセル私犯ヲ訴訟ノ原因トナスニ就テハ英吉利法ノ規則カ如何ナルヤト云フニ之ヲ三ツノ場合ニ區別シテ説明スルヲ得ヘシ

第一ノ場合 英吉利ニ於テモ外國ニ於テモ共ニ非行トナル場合

此場合ニ於テハ英吉利裁判所ニ其賠償ノ訴ヲ提起スルコトヲ得又外國裁判所ニ出訴スルコトヲ得ルハ論ヲ俟タス

第二ノ場合 外國ノ法律ニ於テハ非行トナルモ英吉利ノ法律ニテハ非行ト

ナラサル場合

此場合ニ於テハ英吉利裁判所ニ出訴スルコトヲ許サ、ルノ規定ナリ其理由トスル所ハ内國ノ法律ニ於テ既ニ責任ヲ負ハシムルニ足ラストスルモノナリ外國ニ於テ責任ヲ負ハシムルコトヲ理由トシテ内國ニ於テ訴ヲ起サシムルハ内國法律ノ威嚴ヲ損シ外國ノ法律ヲシテ内國ニ横行セシムルモノナリト云フニ在リ

第三ノ場合 英吉利法律ニテハ非行トナルモ外國法律ニテハ非行トナラザ

ル場合

此場合ニ於テモ亦出訴スルコトヲ許サ、ルノ規定ナリ其理由トスル所ハ私犯ヨリ生スル訴權ハ必ス私犯ト共ニ生スルモノナリ然レトモ外國ニ於テ爲シタル私犯カ外國ニ於テ私犯トナラザル時ハ訴權發生セサルヲ以テ英國裁判所ニ於テ訴權アルヘキ理ナシト云フニ在リ

以上陳述シタル三箇ノ場合ハ現今國際私法上ノ原則ニ外ナラサルナリ

### 第四節 出訴期限

出訴期限ニ關シテハ法理學者ノ說ニ派ニ分レ一ハ義務消滅ノ原因トシ時ノ效果ニ依リテ義務消滅スルモノナリト論シ他ハ一種ノ抗辯方法トシ義務其自身カ絶體的ニ消滅スルニアラスシテ唯或ル一定ノ時間ノ經過後出訴スル時ハ對手ノ一方之ヲ理由トシテ抗辯スルヲ得ルニ過キスト說ク前說ニ隨ヒ義務消滅ノ原因ナリトセハ出訴期限ヲ經過セシヤ否ニ就テハ被告ノ申立ヲ待タスシテ裁判所自ラ注意ヲ爲サ、ルヘカラス之ニ反シテ後說ニ從ヒ一種ノ抗辯方法ニ過キストセハ裁判所ハ一方ノ申立ヲ待テ始メテ期限ヲ經過セシヤ否ヤヲ見



ルヲ得ルノミ若シ一方ノ申立ナキニモ拘ハラズ自ラ進ンテ之カ取調ヲ爲シ出  
 訴期限ヲ經過シタルコトヲ理由トシテ訴ヲ棄却スル時ハ其裁判ハ不法ノ裁判  
 タルヲ免レス  
 斯ノ如ク學者ノ說兩派ニ分カルレトモ今日ニ於テハ前說即チ義務消滅ノ原因  
 ナリトスルノ說ハ既ニ陳腐ニ屬シ後說即チ一種ノ抗辯方法ニ過キストスルノ  
 說勢力ヲ有スルニ至レリ蓋シ現今開明諸國ニ行ハル、出訴期限法並ニ之ニ伴  
 フ諸法則ヲ聚集シ之ヲ綜合シテ歸納的ニ論スル時ハ義務消滅ノ原因トシテハ  
 其一般ノ性質ニ反スル點多キカ故ナリ何レニセヨ今日法律ノ完備スル國ニ在  
 リテハ出訴期限ノ制度ヲ設ケサルモノナシ英吉利ニ於テハゼームス第一世ノ  
 治世中條例ヲ發布シテ之ヲ定メ誹毀犯中特別損害ノ證明ヲ必要トセサル口頭  
 誹毀ニ就テハ二箇年トシ人ノ身體又ハ自由ニ對スル私犯ニ就テハ四箇年トシ  
 侵界物品ノ侵害地所又ハ物品ノ冒認誹毀等其他一切ノ私犯ニ就テハ六箇年ト  
 セリ同國ニ於テハ現今ニ至リ私犯ノ出訴期限長キニ失スルノ說生シタレトモ  
 未タ之カ改正ヲ見ルニ至ラス

借出訴期限ハ如何ナル時ヨリ起算スヘキヤト云フニ訴權發生ノ時日ヨリセザ  
 ルヘカラス而シテ其訴權發生ノ時日ハ實際ノ損害アリテ始メテ私犯アリト云  
 フコトヲ得ル場合ニ於テハ損害ヲ生シタル時ニシテ實際ノ損害アルコトヲ要  
 セスシテ私犯アリト云フコトヲ得ル場合ニ於テハ其所爲ヲ行フタル當時ナリ  
 トス但シ被害者被害ノ當時無能力ナル場合ニ於テハ能力者トナリタル日ヨリ  
 期限ヲ計算シ又被害ノ當時外國ニ在リタル場合ニ於テハ内國ニ歸リタル日ヨ  
 リス又衡平法ニ依レハ加害者ニシテ被害者ニ知ラシメサランカ爲メニ其非行  
 ナ隠蔽シタルトキハ出訴期限ハ被害者非行アリタルコトヲ知リタル日若クハ  
 相當ノ注意ヲ用井ンニハ其非行アリタルコトヲ知リ得ヘカリシ日ヨリ計算ス  
 ルノ定メナリ  
 我現行法律ニ於テモ亦出訴期限規則ナルモノアレトモ私犯ニ關シテハ別ニ期  
 限ノ規定ナシ出訴期限ハ法律ノ明文ヲ以テスルニアラサレハ之ヲ設クルコト  
 ヲ得サルカ故ニ我國ニ於テハ私犯ニ付テハ如何ニ多數ノ年月ヲ經過スルモ尙  
 ホ出訴スルコトヲ得ルモノトセサルヘカラス



但シ刑事訴訟法第八條ニ左ノ規定アリテ公訴ノ時効ハ左ノ期間ヲ經過スルニ依リテ成就ス

第一 違警罪ハ六箇月

第二 輕罪ハ三年

第三 重罪ハ十年

又第九條ニ左ノ規定アリ

私訴ノ時効ハ被害者無能力ナルトキ又ハ公訴ニ附帶セスシテ其訴ヲナシタルトキト雖モ公訴ノ時効ト其期間ヲ同シクス

公訴ニ付既ニ刑ノ言渡アリタルトキハ民法ノ定メタル時効ノ例ニ從フ

然リ而シテ私訴トハ如何ナルモノナリヤニ付テハ刑事訴訟法第二條ノ指示スルカ如ク「犯罪ニヨリ生シタル損害ノ賠償贖物ノ返還ヲ目的トスルモノ」ニシテ何レモ私犯上ノ訴ニ外ナラサルナリ故ニ私犯ニ關シテハ出訴期限ノ規定ヲキハ原則ナルモ同一ノ行爲カ公犯トモナリ亦私犯トモナル場合ニ於テハ出訴期限ノ規定アリト云ハサルヘカラス

民法證據編第五十條ニ曰ク

義務ノ免責時効ハ債權者カ其權利ヲ行フコトヲ得ヘキ時ヨリ三十箇年之ヲ行ハサルニ依リテ成就ス但シ法律上別段短キ期間ヲ定メ又ハ債權ヲ時効ニ罹ラサルモノト定メタルトキハ此限ニアラス

同條ハ義務ノ免責時効ニ關スル一般ノ規定ニシテ特例アルモノハ其特例ニ隨フ旨ノ但書ヲ加ヘタリ然レトモ不正ノ損害ヨリ生スル義務ニ就テハ新民法中特例ノ規定アルコトナク又身體ノ安全自由名譽ニ對スル私犯ニ就テハ金錢上ノ損害ヲ生スル場合ノ外ハ新民法中一モ規定スル所ナキカ故ニ新民法實施ノ曉ニ至ラハ總テ財産ニ影響ヲ及ホス非行ノ出訴期限ハ總テ三十箇年トナリ財産ニ影響ヲ及ホサル私犯ニ就テハ同時ニ刑法上ノ犯罪ヲ組織スル場合ノ外ハ依然出訴期限ナキコト、ナラン

### 第七章 私犯上責任ノ消滅

上來講說セシ所ハ私犯上責任ノ發生及ヒ效果ニアリ本章ニ於テ是ヨリ進



テ既ニ發生シタル私犯上ノ責任ハ如何ナル場合ニ消滅スルヤ換言スレハ私犯ヨリ生スル權利義務ノ關係ハ如何ニ終結スルヤヲ講說セントス

責任消滅ノ原因ハ素ヨリ種々アリ損害金ヲ辨償スヘキ責任ニ付テハ其金額ヲ辨濟シ又ハ建設物ヲ破毀スヘキ責任ニ付テハ其建設物ヲ破毀スルニ依リテ消滅ス此等責任ノ本旨ニ從ツテ其責任ヲ盡スチ新民法上辨濟ト名ツク又損害金ヲ辨償スヘキ場合ニ於テ其代リニ物品ヲ引渡スコトヲ約スルカ又ハ第三者ヲシテ代ツテ辨償セシムルコトヲ約スル等一種ノ責任ニ代フルニ他種ノ責任ヲ以テシ又ハ從前ノ責任者ニ代フルニ他人ヲ以テスルモ亦責任消滅ス新民法上之ヲ更改ト名ツク又被害者其責任者ニ對シテ損害金ヲ支拂フニ及ハス又ハ建設物ヲ破毀セスシテ可ナリト約スルカ又ハ全ク自己ノ權利ヲ放棄スルトキモ亦責任消滅ス新民法上之ヲ合意上ノ無償免除ト名ツク又被害者ノ相續人訴訟ヲ提起スヘキ場合ニ其相續人自身カ加害者ナル場合又ハ加害者ノ相續人カ被告トナルヘキ場合ニ其相續人自身カ被害者ナル場合即チ相續ニ依リテ害ヲ加ヘタルモノト害ヲ被リタルモノト同一トナリタル場合ニモ亦其責任消滅ス新

因タルハ獨リ私犯ノ場合ノミニ限ラス且殆ント萬國ニ通スルノ法理ナルヲ以テ余ハ特ニ本章ニ於テ説明ヲナサ、ルヘシ然レトモ被害者若クハ加害者ノ死去ヲ以テ責任消滅ノ原因トナスハ英吉利法律ニ於テ特有トスル所ナルヲ以テ今ヨリ聊カ之カ説明ヲナシ其論評ヲ試ミントス

羅馬法ニ於テ人ニ對スル訴權ハ其人ノ死去ト共ニ消滅スト云ヘル法語ヨリ英吉利普通法ニ於テハ私犯ニ關シテハ無制限ニ此法語ヲ採用シ私犯ヨリ生スル訴權ハ假令訴訟ノ提出後ト雖モ被害者又ハ加害者ノ死亡ニ依リテ消滅スルコトニ定ム羅馬法ニ於テスラ猶ホ該法語ニ多少ノ例外アルニモ拘ハラズ英吉利法ニ於テハ總テ訴訟提起ノ前後ヲ問ハス被害者ハ加害者ノ死後管財人ヲ訴フルコト能ハス又被害者ノ死後管財人ハ加害者ヲ訴フルコト能ハサルナリ

此原則ノ適用ハ英吉利法ニテハ單純ノ訴訟手續ノ場合ニノミ限ルニアラス仲裁判斷ノ場合ニ於テモ亦適用スルコトヲ得仲裁人ハ當事者ヲ審問シタル後ト雖モ仲裁人判斷ヲナス前ニ當事者ノ一方死去スルトキハ雙方間ノ權利義務ハ爰ニ消滅スルモノトシ豫メ仲裁契約締結ノ際其契約中ニ當事者ノ一方カ死去



スルトキハ其管財人代リテ仲裁判斷ノ言渡ヲ受クヘキ旨ノ條項ヲ設クルモ亦其效果ナシトス其理由トスル所ハ斯ル條項ヲ設クルモ是レ唯、仲裁判斷ノ手續ヲ定ムルニ過キスシテ仲裁判斷ノ根本タル訴權ノ存滅ニ影響ヲ及ホスコトナシト云フニ在リ

斯ノ如ク私犯ヨリ生スル責任ハ加害者若クハ被害者ノ死去ニ依リテ消滅ストナシタルハ必竟往昔人民復讐ノ念慮盛ナル時代ニ當リテハ法律上ノ制裁ハ民事、刑事ヲ問ハス總テ復讐主義ヲ採用シタルニ因ル蓋シ復讐ノ念慮ハ通常對手人ノ死去ト共ニ消滅シ其子孫ニ及フモノニアラサレハナリ然レトモ近世ノ法理ニ於テハ復讐主義ハ業ニ既ニ陳腐ニ屬シ民事上ノ制裁ハ全ク賠償主義ニ變シタリ換言スレハ民事上ノ制裁ハ被害ノ回復ヲ以テ主眼トスルニ至レリ故ニ英吉利普通法ノ原則ハ今日ニ於テハ全ク理由ナキモノト云ハサルヘカラス先ツ義務ノ點ヨリ考フルニ加害者ノ財產カ加害者ノ死亡ノ爲メニ被害者ノ損害ヲ補フノ資ニ充ツルコト能ハサルノ理由ハ到底之ヲ發見スルコト能ハス被害者ニ回復スルノ道ヲ塞クヨリハ寧ロ相續人ノ相續財產ヲ滅スルノ條理ニ適

ヨリ一千八百四十九年十月十一日ノ閣令ニテ一般ニマツチ製造場ニ使役サル、勞働者ノ琉黃ノ害毒ヲ被ムルコトヲ防ク爲メ保護ノ規定ヲ設ケタリ而シテ尙ホ進ミテ勞働者ヲ保護スルニ至リタルハ一千八百六十一年ノ法律是ナリ之ニ續テハ一千八百六十三年發布ノ條例ナリ最後ノ二條例ハバイエルン國ニ於テハ今日ト雖モ尙ホ有效ナルモノナリ

以上講述シ來レル有様ノ間ニ獨逸ノ聯合行ハレ遂ニ獨逸帝國設立セラレバイエルンモ亦帝國內ノ聯邦中ノ一トナリシヲ以テ北獨逸聯邦ノ法律モ此國內ニ行ハル、コトニナレリ此次第ハ第二項ニ於テ已ニ講述シタルヲ以テ茲ニ再ヒ贅セス

#### 第四項 王國ガクセンニ於ケル保護律ノ沿革

茲ニ特ニ王國ノ二字ヲ冠シタルハ獨逸ニ於テハザクセンヲ以テ命名セル國數箇アリ或ハ公國ザクセント云ヒ或ハ大公國ザクセント稱シ或ハ單ニザクセント名クルヲ以テナリ固ヨリ獨逸帝國聯邦内ノ一ニ過サルモノニシテ余



カ是ヨリ講スル所ハ王ナ以テ支配サル、ザクセンノコトヲ云フモノニシテ  
 諸君ノ或ハ之ヲ混淆セラレンコトヲ恐レ此ニ特ニ王國ノ二字ヲ冠セルナリ  
 ザクセンニ於テハ一千八百六十一年十月十五日工業法ナルモノヲ發布シテヨ  
 リ以還製造場ニ就業スル者ノ年齢ヲ滿十歳以上トシタリ而シテ六十五年ヨリ  
 以後ハ之ヲ滿十二歳以上ト改メ併セテ製造場トハ如何ナルモノヲ指スカナ定  
 メタリ而シテ今日ハ此定義ニ依レリ製造場トハ凡テ二十人以上ノ職工ヲ役使  
 スル工場ヲ云フトハ此法律ノ定メタル所ナリ斯ル製造場ニ在テ毎日就業スル  
 幼工ノ労働時間ハ滿十四歳マテハ休憩時間ヲ併セテ十時間ヲ超過スルコトヲ  
 許サス又夜業ヲ爲サシムルコトヲモ禁止セリ而シテ此法律ノ第七十六條ニ此  
 ノ如キ工場ニ對シテハ特ニ復タ製造場條例ノ發布サルヘキコトヲ規定シ七十  
 條ト七十四條トハ一般ニ實物拂ノ制ヲ禁止シ七十五條ハ雇主ヲシテ労働者ノ  
 生命健康ニ害アルモノヲ防止スルノ仕組ヲ設クヘキ義務ヲ負擔セシムル規定  
 ナナセリ然レトモ一般ノ原則トシテハ契約自由ノ主義ヲ取リタリ只其六十六  
 條及ヒ六十七條ハ豫メ告クルコトヲクシテ業ニ就キ若クハ業ヲ去ルカ如キ場  
 四十四

合ニ於ケル處置方ヲ規定シ六十八條ト七十一條トハ賃銀削減ヲ許ス場合七十  
 八條以下ニハ賃銀ニ關スル一般ノ規定ヲ設ケタレトモ此等ノ規定ハ皆契約自  
 由主義ノ例外ト看做サ、ル可カラス  
 ザクセンノ労働者保護ニ關スル過去ノ規定中ニテ特ニ注意ヲ要スルハ實物拂  
 ノ禁制ナリトス昔時ザクセン國ノグルコンハイニヘン地方ハ木細工業非常ニ  
 盛大ナリシカ政府ハ其業ヲ獎勵セムカ爲メ木細工物ノ代リニ之ヲ作造セシ者  
 ニ他ノ器物ヲ與ヘテ之ヲ報酬ト爲スヲ許セリ即チ政府ハ實物拂ヲ獎勵セリ其  
 後之ヨリ漸次弊害ヲ生スルニ至リシカハ一千八百四十九年ニ至リテ政府ハ實  
 物ヲ以テスルコトハ危険ナル法方ナリトノコトヲ發見セリ依テ之ヲ禁止セン  
 カ爲メ同年十月二十二日木細工物賣買人小賣商等ニ關スル勅令ヲ發布シ其後  
 一千八百五十五年十二月十八日再ヒ勅令ヲ發シテ製造場若クハ一家内ニテ爲  
 ス所ノ業ニ從事スル労働者ノ賃銀ヲ實物拂トナスコトヲ一切禁止セル詳細ノ  
 規定ヲ設ケリ  
 是ヨリ以後獨逸帝國ノ設立サレ北獨逸聯邦工業條例此國ニ適用サル、ニ至ル



マテザクセン王國ニ於ケル勞働者保護ニ關スル特別ノ歴史ハ別ニ之アラサルナリ

### 第五項 ヴォルテンベルグニ於ケル勞働者保護律ノ沿革

此國ニ於テ一千八百六十一年二月十二日ニ發布セラレタル新營業條例ハ第十七條ヨリ第三十九條マテノ間ニ助手ト徒弟トカ雇主ニ對スル關係ノ規定ヲ設ケ其第四十四條及ヒ第四十五條ニ製造場ニテ使役サル、勞働者ニ關スル規定ヲ設ケリ其製造場ト稱スルハ一定ノ構内ニ在ル建物ニシテ水火風雨ノ如キ自然力ヲ借リ若クハ分業法ニ依リテ二十人以上ノ職工ヲ營利的ノ業務ニ使役スル所ナリ而シテ此ノ如キ營利的ノ事業ニ關シ條例ノ第四十一條ハ尙ホ追テ別ニ職工場規則ヲ發布スヘキ旨ヲ明言セリ又第四十二條ハ製造場ノ建築法製造場内ノ就業法並ニ衛生ニ害アル原料ヲ用井或ハ之ヲ捨ツルトキニ際シ勞働者ニ害ナキ様注意ス可キコトヲ規定シ第四十三條ハ實物拂ヲ禁セリ而シテ學校

ニ通學スル幼者並ニ十八歳以下ノ者ヲ製造場ニ使役スルコトニ關シテノ規定ヲ設ケ第四十四條ハ幼者カ絶ヘス寺院ノ祈禱ニ出席シ法律ノ規定スルタケ學校教育ヲ受クルノ義務ヲ盡スト同時ニ又其身心ノ健康ヲ害シ宗教道德ノ教ヲ缺タカ如キコトナガラシムル様注意セサル可カラスト云フ規定ヲ設ケタリ併シナカラ此規定タル甚タ漠然タルモノニシテ實際之ヲ執行スルニ當リテハ如何ナル詳細ノ規定ヲ要スルヤハ此條例ノ敢テ關セサルモノ、如ク執行上ノ責任ヲ負ヒ細則等ヲ定ムルコトハ單ニ之ヲ地方官ノ意見ニ任セリ

右陳述スル所ノ外獨逸帝國ノ成立スルマテ此國ニ於テハ勞働者保護ニ關スル特別ノ歴史ナシ

### 第六項 大公國バーデンニ於ケル勞働者保護律ノ沿革

獨逸聯邦中ニハ王國アリ公國アリ共和國アリ大公國アリ其他尙ホ種々ノ區別アルカ故ニ特ニ此大公國ナル字ヲ冠シ以テ混同セサランコトヲ期ス



此國ニ於テハ已ニ一千八百四十年三月四日ノ關令ヲ以テ學齡兒童ヲ製造場ニ使役スルニ當リ其受クヘキ學校教育ニ關シテ二三ノ規定ヲ設ケリ即チ幼者ハ滿十一歳ニ至レハ小學ニ通學スルコトヲ停止スルコトヲ得而シテ若シ之ヲ停止シタルトキハ製造場内ニ設ケタル學校ニ於テ毎日少ナクトモ二時間以上ノ教育ヲ受ケシメサル可カラズ而シテ此教育ノ時間ト勞働ノ時間トヲ合セテ一日十二時間以上ニ至ルコトヲ禁セリ但シ戶外ノ業ニ就クトキハ此限ニ在ラストセリ又斯ル幼者ヲ夜業ニ使役スルカ如キ或ハ日曜日大祭日ニ就業セシムルカ如キコトハ固ヨリ之ヲ禁セリ其後發布サレタル一千八百六十二年九月二十日ノ營業條例並ニ同年同月二十四日ノ營業條例施行細則ハ以上陳ヘシ規定ヲ認定セルモノナリ即チ一千八百四十年ノ規定ヲ認メテ之ヲ條例ノ内ニ加ヘリ此ノ條例第二十二條ニハ營業場ニテ助手ヲ使役スルニハ一定ノ教育ヲ受ク可キ時間ヲ減少シ又ハ勞働ノ爲メニ始終宗教上ノ義務ヲ怠ルノ傾キアリ或ハ身體、道德、知識ノ發達ヲ妨クルカ如キコトナカラシムルコトヲ慮リ其第二十三條ハ總テ二十人以上ノ勞働者ヲ使役スル營業者ヲシテ就業規則ヲ設ケシメ且ツ之ヲ

發狂ノ如キ觀アリ而シテ其最モ甚シキ時ヲ西曆千八百八十年乃至八十五年ノ間トス然ルニ其結果タル玻璃營業ニ於テハ佛、白ハ衰退ノ色ヲ示ハシ獨逸ハ玻璃紙類ニ著シキ進歩ヲ爲シ機械類ハ些少ノ増加ヲ示シ鐵及鋼鐵ノ輸出ニ於テハ却テ減少ヲ示シ佛、澳亦鐵業ニ利アラズ革類及ヒ革細工ニ於テハ獨逸大ニ利ヲ得佛國ハ大ニ衰色ヲ示ハセリ然ルニ獨リ英國ハ卓然トシテ自由主義ヲ確守シ綿絲羊毛絲織物類ニ於テハ大ニ其地位ヲ得地鐵々具ニ於テハ世界ノ總供給ノ六割四分二厘ヨリ六割六分五厘ニ増進シ機械類ノ輸出ニ於テハ六割六分七厘ヨリ六割九分一厘ニ増加シ玻璃事業ハ依然トシテ増減ヲ示サズ夫レ此成績ヨリ之ヲ視ルニ歐洲大陸ニ於テ保護干涉ノ政策ヲ取ル諸國果シテ能ク其目的ヲ達シタルモノトスル哉又果シテ能ク其國家ヲ益シタルモノナル哉宜シク考究スヘキコト、ス蓋シ今回ノ中央歐洲關稅同盟ハ其不利ヲ知ルノ結果タラサルヲ得ス有名ナル米國「マキンレー」條令ト雖モ猶一般ニ稅率ヲ減スルニ至ル實ニ變動止マサルノ理豈ニ已ムヲ得ンヤ

輓近經濟上ノ混亂ハ生産分配方法ノ變動ヨリ出テ未タ各種ノ營業間ニ於テ充



分ノ調和ヲ得サルモノ多シト雖モ諸國ノ貿易政略殆ント中世ノ勢ヲ示シ互ニ  
 交換ノ便ヲ妨ケ自他ノ便宜ヲ謀リ有無相通シ長短相補フノ策ヲ棄テ徒ラニ他  
 國ヘ不便ヲ與フルヲ以テ自國ノ便益トスルノ消極的ノ方針ヲ取リ互ニ互ノ生  
 產物流出ノ路ヲ杜絶シタルコト實ニ之カ偏チ作リタルモノト云フヘシ而シテ  
 其結局ハ生産ノ進捗通信運搬ノ開達ノ如キ其自然ヨリ生スル積極的ノ勢力ト  
 前陳ノ如キ人爲ヨリ生スル消極的ノ進力遂ニ相衝突シテ未曾有ノ大波瀾ヲ惹  
 起シタルヤ疑フヘカラス抑、人文ノ發達ハ事物ノ關係ヲ繞密ニシ人事ノ利害ハ  
 人文ノ發達ト共ニ衝突ノ勢ヲ増加ス故ニ中世ノ保護干涉主義ノ實施植民政略、  
 航海保護法、五穀輸入禁制等ハ尙ホ或ハ堪ユル所アリシト雖モ近世ニ至リテハ  
 則チ然ラス西曆千八百七十八年比ヨリ一時非常ノ勢ヲ示シタル保護干涉主義  
 ノ如キハ終ニ久シキヲ持スル能ハス九十二年ニ至リ中央關稅同盟ヲ生シ爲メ  
 ニ漸ク其勢力ヲ減シ將ニ進ンテ自由ノ域ニ入ラントスルノ景況アリ嗚呼滔々  
 タル天下ノ大勢力人爲ノ以テ如何ントモスル能ハサルハ亦タ多辯ヲ要セサルナ  
 リ

歐洲大陸諸國關稅率ノ増加ハ大ニ外國貿易ノ發達ヲ妨ケタルハ明了ナリト雖  
 モ其増加ハ敢テ一時ニ之ヲ施行シタルモノニ非ス漸次之ヲ釀成シタルヲ以テ  
 世人直接ニ其害毒ヲ知ラス冥々ノ中ニ稅率ヲ進行シ歲月ノ經過ト共ニ習慣ヲ  
 馴致シ未タ俄カニ保護干涉ノ災ヲ顯サス一時却テ進步ノ外觀アルヲ以テ大ニ  
 得色アリシニ何ソ知ラン其結果タル既ニ前陳ノ如クナラントハ豈ニ寒心セサ  
 ルヘケンヤ抑、是等ノ得失ハ專門學士ニ非サル以上ハ深ク經濟上ノ現像係關ヲ  
 考究シ事物ノ盛衰ヲ談スルモノニ非ス只目前顯出スル所ノコトヲ以テ成敗ヲ  
 計ルモノナレハ其得ヘキヲ失フヲ意トセス却テ得ヘカラサルヲ失フニ至テハ  
 囂々不平ヲ鳴スヤ實ニ天下ノ常態トス若シ夫レ經濟自然ノ結果ヨリシテ失ハ  
 シムルハ實ニ已ムヲ得サルモ無謀ニ干涉抑制ノ方略ヲ取リ當然得ヘキモノア  
 ルモ遂ニ之ヲ得ルコト能ハサルニ至ラシムルハ其責實ニ何レニアル乎般鑑遠  
 カラス吾人ノ宜シク注意スヘキ所ナリ彼ノ魯國ノ如キハ高率ノ租稅ヲ以テ實  
 際其民ヲシテ外國產ノ鐵及鋼鐵ノ使用ヲ斷タシム抑制モ亦甚シト云フヘシ元  
 來鐵ノ如キハ日常ノ要品一トシテ之ヲ用ヒサルナク其需要ノ廣キ實ニ人世衣



食住中ノ最位ヲ占メ萬般ノ職業之ヲ用ヒ之ニ依ラサルヲ得ス只之ニ對シテ保護策ヲ取ルモノハ一旦國家有事ノ時ニ際シ兵器製造ノ爲メニスル理由アリト雖モ其保護極度ニ達セハ萬業ノ發達ヲ妨ケ其結果ハ獨リ鐵業者ニ私スルニ止ル豈ニ之ヲ以テ國家ノ隆盛ヲ期スヘケンヤ獨逸ハ魯國ノ其領内ナル舊ポーランド地方ニ於テ獨人ノ土地ヲ所有スルコトヲ禁シタルヲ怒リ其復讐トシテ魯麥ノ輸入ニ高率ノ稅ヲ賦課シ以テ魯ヲ苦シメントシタルモ其結果ハ大ニ獨ノ麥粉製造事業ヲ妨ケ遂ニ雙方ヲ害セシノミナラス其餘波澳國ノ農利ヲ害セシヲ以テ忽チ其報答ニ遭遇シ澳政府ハ獨逸製造品ノ來路ヲ杜絶センカ爲メ其輸入ニ對シ非常ノ高稅ヲ課セリ其他白耳義ノ如キハ家畜及肉類ノ輸入ヲ妨ケ澳魯獨佛白蘭ノ諸國ハ砂糖輸入ノ路ヲ絶ントシ佛ハ更ニ豕肉豕脂類ノ輸入ヲラシールハ米ノ輸入ヲ妨ケントシ而シテ伊佛ノ間ハ必死ノ力ヲ盡シ互相貿易上充分ノ害ヲ與ヘントシタルハ實ニ千載ノ奇觀ト云フヘシ夫レ歐洲大陸ノ人士漸ク干戈ヲ以テ國土ヲ爭フノ難キヲ察シ爰ニ其方向ヲ一轉シ財利上ノ便ヲ奪フヲ以テ外國ヲ弱メント欲シ夜々汲々計畫スル所アルモ終ニ自國ヲ苦シムル

ノ結果ニ至ルヲ知ラス惜ヒ哉然レトモ彼ノ中央關稅同盟ハ稍其非ヲ悟リタルモノニシテ是レヨリ保護干涉ノ熱病ハ將ニ冷却セントスルノ期アラントス吾人モ亦宜シク之ヲ鑒ミ將來經濟上ノ目的ヲ達センコトヲ勉ムヘシ抑積極的自然發達ノ力大ハ則チ大ナリト雖モ其消極的人爲ノ干涉力亦大ニ效驗ナシトセス魯國輸入貿易ノ如キハ西曆千八百八十三年乃至八十七年ノ四年間ニ於テハ四割三分ノ減少ヲ示シ歐洲大陸諸國ノ外國貿易多少其影響ヲ蒙ムレリ北米合衆國ハ新開ノ國ニシテ農業最モ盛大ヲ極メ而シテ其保護ハ漸ク諸國ノ復讐心ヲ喚起シ西曆千八百八十一年以來農作物ノ輸出ニ非常ノ影響ヲ及ホセリ則チ八十八年ヲ以テ八十一年ニ比スレハ牛羊ノ輸出高二割四分五厘價格ニ於テハ一割九分豕肉類ノ輸出價格ニ於テ四割三分三厘野菜果物類ハ價格ニ於テ五割以上ヲ減シ佛國ヘノ輸出ハ殊ニ著シキ減少ヲ示セリ則チ西曆千八百八十年ニハ九千九百萬ドルナリシト雖モ八十六年ニハ四千萬ドル八十八年ニハ三千七百七十八萬ドルニ減少セリ

大體ニ於テ保護稅ノ不利ナルハ學者間既ニ一定ノ論アルヲ以テ敢テ之ヲ再演



スルヲ要セサルモ請フ更ニ一ニ言ヲ費サ、ルヲ得ス則チ保護ノ結果ハ其被保護物ノ代價ヲ高フスルニ由リ消費者負擔ノ増加ハ實ニ非常ナルモノニシテ一見其不利ナルヲ證スルニ足レリ今製鐵事業ニ就テ之ヲ見ルニ米國鐵及ヒ鋼鐵組合ノ調査ニ據レハ西曆千八百七十八年乃至八十七年ノ十年間合衆國ニ於テ消費シタル鐵及ヒ鋼鐵ハ年ニ由リ多少ノ差異アリト雖モ平均一年六百萬噸ニシテ世界ノ總產出高ノ凡ソ三割ヲ占ム八十七年ノ如キハ殊ニ多額ヲ消費シ自國ノ產出高ハ七百十八萬八千噸ナリシニ其消費高ハ九百二十七萬噸ノ巨額ニ達セリ英國ニ於テ前記十年間ノ平均產出高ハ凡ソ八百四十萬噸ニシテ八十七年ノ產出高ハ殆ント平均高ト凡ソ同額ナリ故ニ同時間中合衆國ノ消費高ハ凡ソ英國產ノ七割五分ニシテ八十七年ノ消費高ハ之ヲ超過ス而シテ英國ヲ除キ其他ノ國ハ鐵類ヲ輸入スルコト之ヲ輸出スルヨリ多シ合衆國ハ多少他國ノ鐵類ヲ使用スルト雖モ多クハ自國ノ鐵類ヲ使用セサルヲ得ス果シテ然ラハ合衆國人民ハ鐵ノ保護ニ由リ外國ニ比シテ自國ニ於テ鐵價ノ高騰スル丈ケハ自國ノ鐵ノ生産者ノ爲メ租稅ヲ拂フモノト云フヘシ實ニ憫笑スルニ堪ヘタリ

西曆千八百七十八年乃至八十七年ノフヒラドルフヒヤ產地鐵ノ平均價格ハ一噸二十一「ドル」八十七仙ニシテ同時期中蘇格產同等ノ地鐵一噸ノ平均價格ハ英國ニ於テハ十二「ドル」九十四仙ナリシ故ニ運賃、保險料ヲ十分ニ見積リテ蘇格產ノ鐵ハ一噸十五「ドル」ナレハ容易ニ合衆國ニ輸入スルコトヲ得ヘシ若シ夫レ合衆國生産高其需要高ニ應スルコト能ハス英產ノ鐵ヲ輸入スルノ必要アレハ英、米間十二「ドル」九十四仙ト十五「ドル」トノ差違アルハ止ムヲ得スト雖モ保護ノ爲メ二十一「ドル」八十七仙ト十五「ドル」トノ差則チ殆ント一噸ニ七「ドル」ノ差違ヲ生スヘシ是レ合衆國人民ノ不幸ト云フヘシ

今又上等地鐵ヲ以テ之ヲ論スレハ更ニ驚シヘキモノアリ則チフヒラドルフヒヤ產地最上棒鐵一噸(二千五百四十英斤)ノ噸ナリノ代價ハ前記十年間平均五十「ドル」三十仙ナリシニ英國スタッツナルドシヤアノ最上棒鐵ハ英國ニ於テハ同時中三十五「ドル」四十八仙ナリシ實ニは一噸ニ付十四「ドル」ノ差違ナリ是ニ由テ之ヲ觀レハ品位ノ進ムニ從ヒ價格ノ差違益々其度ヲ加フルハ敢テ疑ヲ容レス然レトモ今假リニ數歩ヲ讓リ合衆國人民ハ皆普通ノ地鐵ヲ使用スルモノトシ英、米ノ間ニ七



「ドル」ノ差違アルモノトシテ之ヲ論スルモ前記十年間ニ合衆國ノ鐵ノ消費高ハ六千萬噸ナルヲ以テ合衆國人民ハ同額ノ消費ニ對シ英國人民ヨリ四億二千萬「ドル」ノ高ナ餘分ニ支拂ヒタルモノトス其不幸知ルヘキナリ

又鋼鐵ヲ以テ之ヲ論スルモ西曆千八百七十八年ヨリ八十七年マテノ十年間ニ於ケル合衆國ノ消費高ハ二千萬噸餘ニシテ一年ノ平均消費高ハ凡ソ二百萬噸ナリ今英米間ニ最モ差違ノ少ナキ鋼鐵製條軌即「レール」ヲ以テ之ヲ論スルモ前記十年間米國ニ於ケル鋼鐵製條軌一噸ノ代價ハ四十四「ドル」英國ニ於テハ三十「ドル」ニシテ十年間鋼鐵消費上同額ニ對シ兩國ニ於テ二億八千萬「ドル」ノ差違アルモノトス然レトモ此計算ハ鋼鐵ノ素品タル普通鐵ノ一噸ニ付七「ドル」ノ差違既ニ算入シアルヲ以テ實際右十年間ニ合衆國人民カ鋼鐵ノ爲メニ英國人民ヨリ餘分ニ費シタル金高ハ一億四千萬「ドル」ニ當ル（普通鐵ノ爲メ消費高六千萬噸ノ内ニハ鋼鐵ヲ製造シタルモノヲ含有スルニ依リ本除算ヲ要ス）

是ニ由テ之ヲ觀レハ西曆千八百七十八年ヨリ八十七年ノ間ニ合衆國人民ハ其保護政略ノ爲メ鐵及ヒ鋼鐵消費ノ爲メ英國人民ヨリ凡ソ五億六千萬「ドル」則チ



賣捌所

東京麴町區上六番町

日成

同 京橋區尾張町

東海

同 本郷區元富士町

解明

同 神田區錦町

武藏

同 神田區一橋通

有斐

同 神田區錦町三丁目

朝陽

麻布區永坂町五拾壹番地

旭

堂 堂 閣 屋 堂 堂 堂

明治廿六年四月十三日印刷

明治廿六年四月十四日出版

定價拾錢

東京市神田區今川小路二丁目十四番地

發行兼印刷者 高橋捨六

東京市小石川區下富阪町十七番地

編輯者 濱田健次郎

東京市神田區今川小路二丁目八番地

發行所 特別認可 私立專修學校